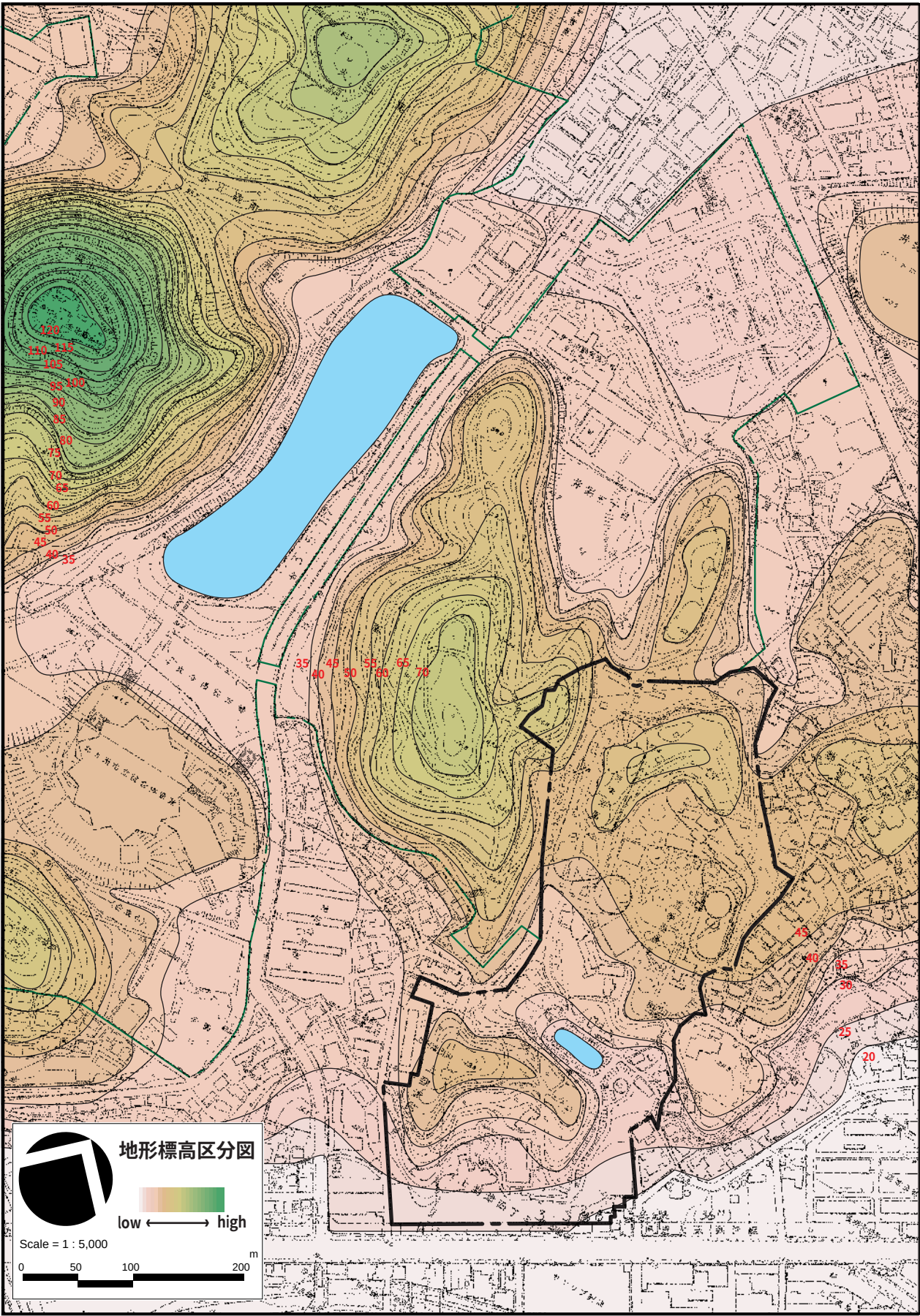
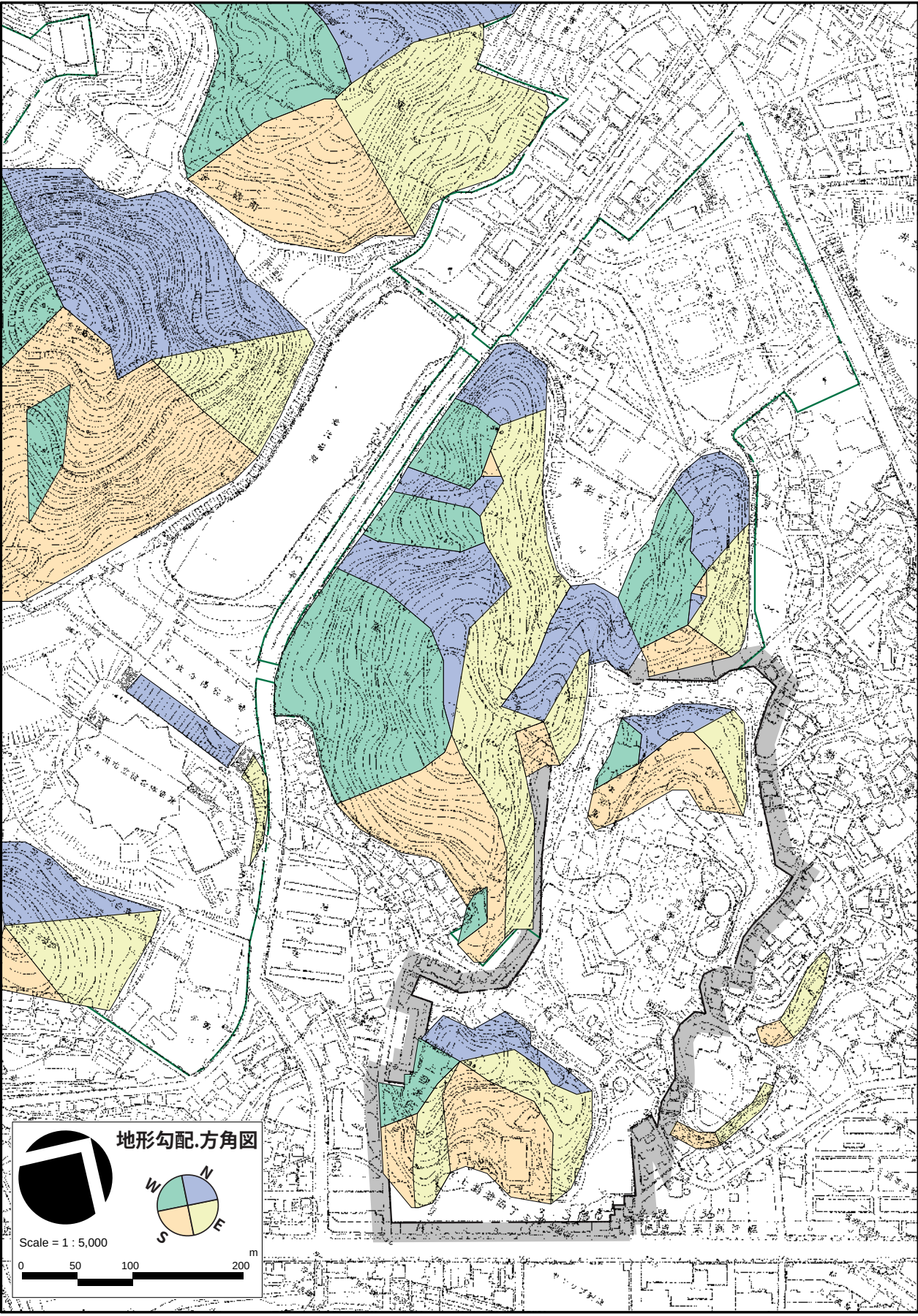


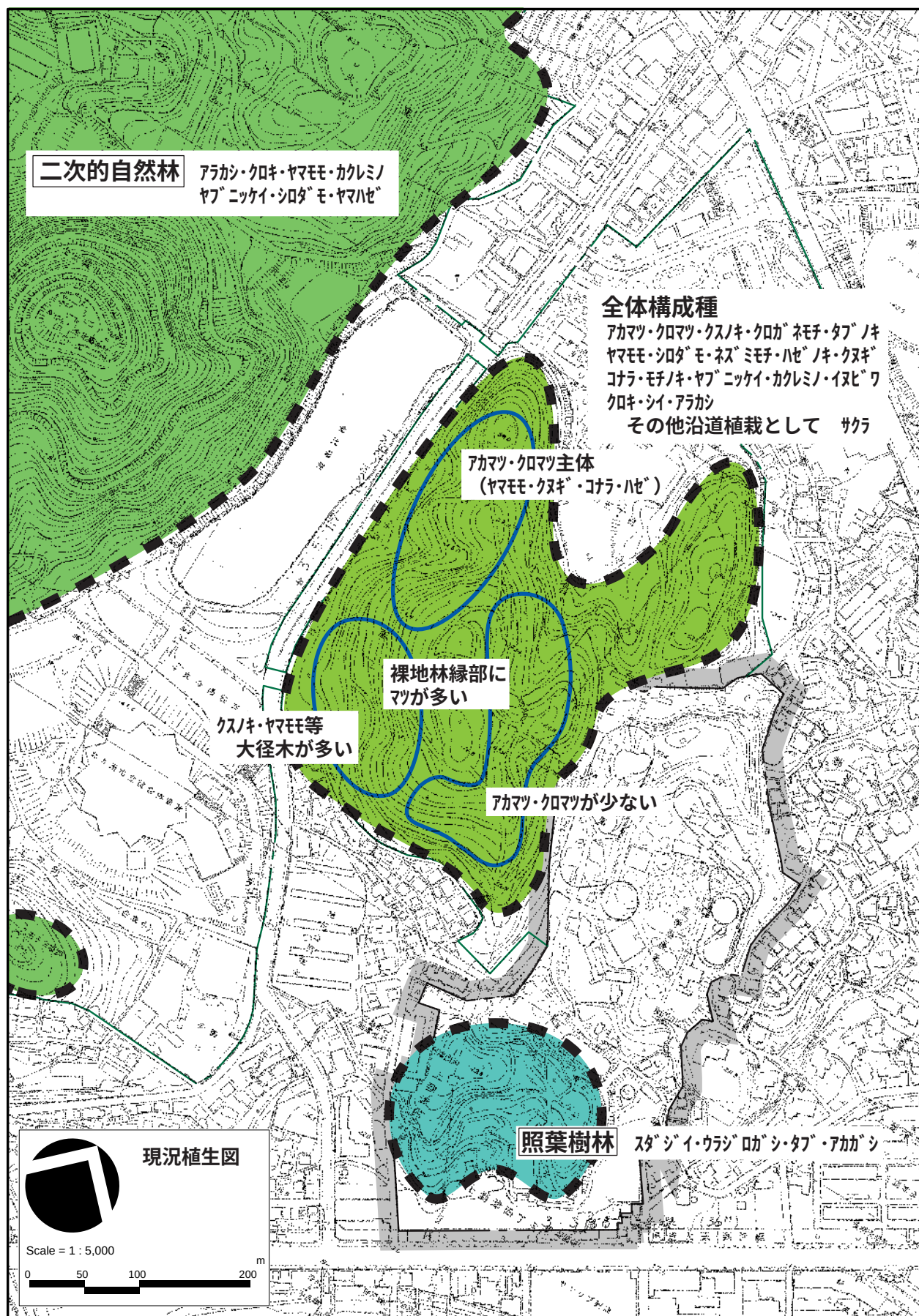
地形標高区分図



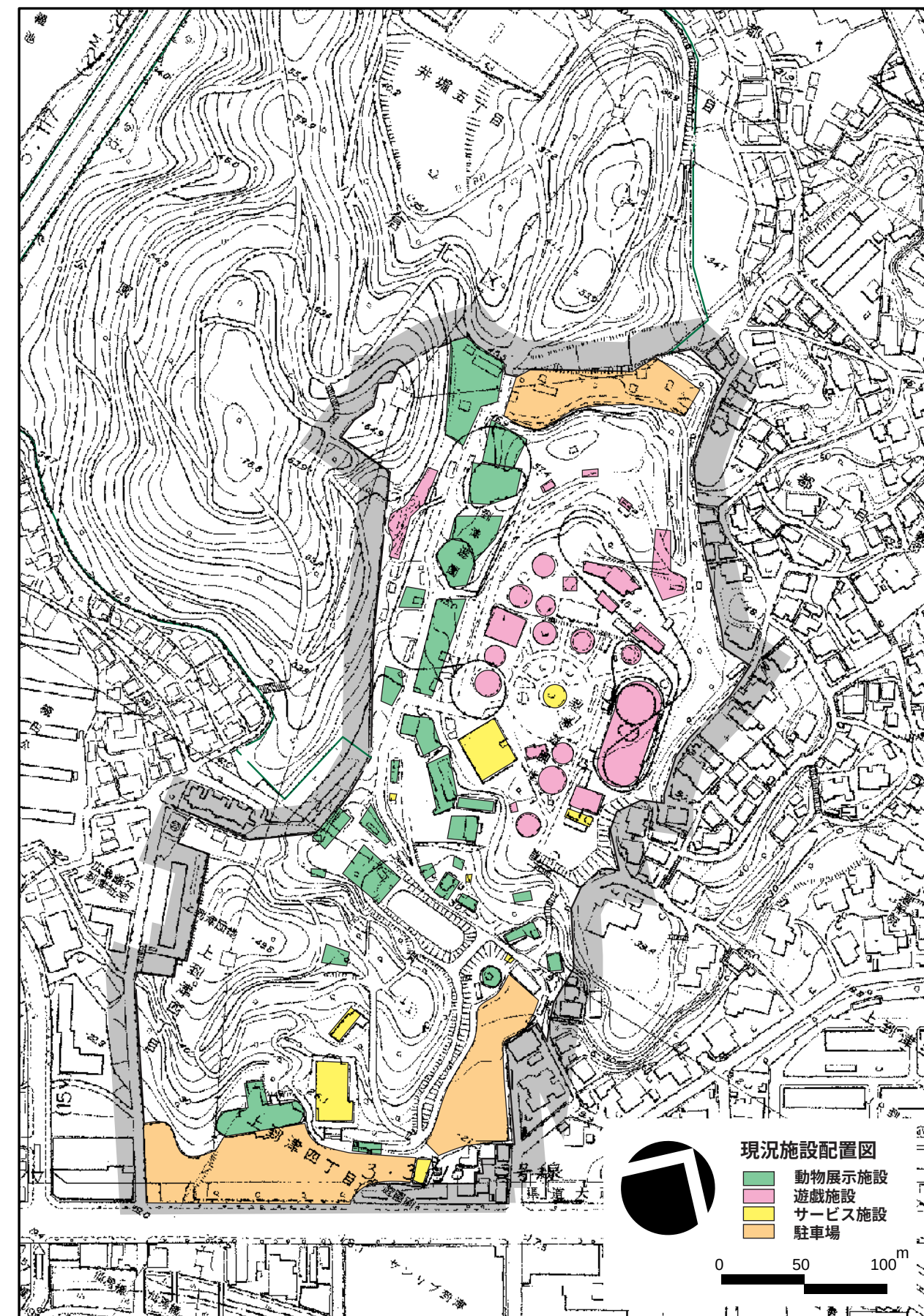
地形勾配・方角図



現況植生図

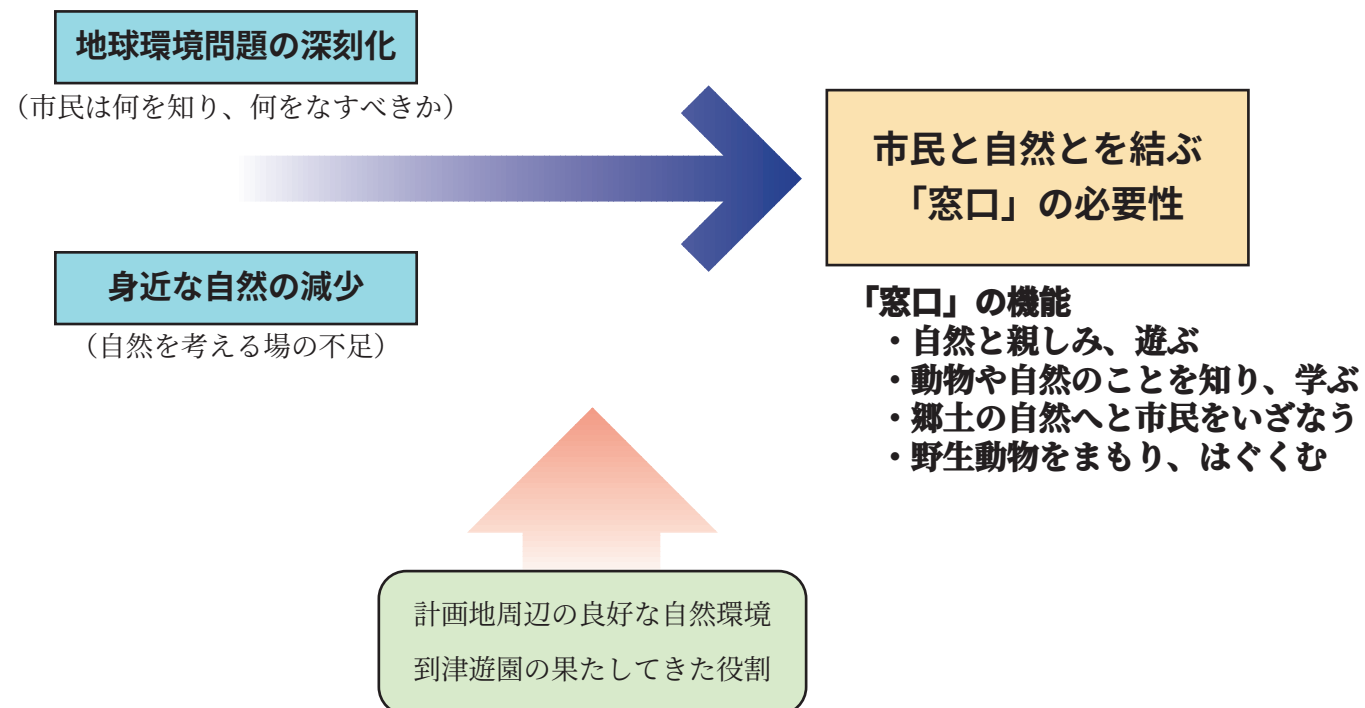


現況施設配置図



計画理念

市民と自然とを結びつける「窓口」となる公園をめざす

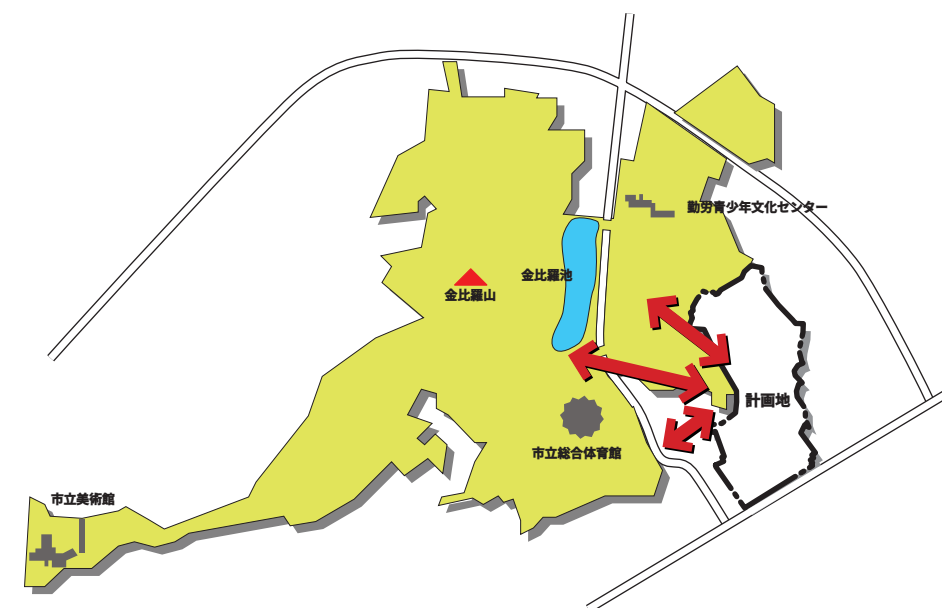


世界の動物と自然環境への窓口

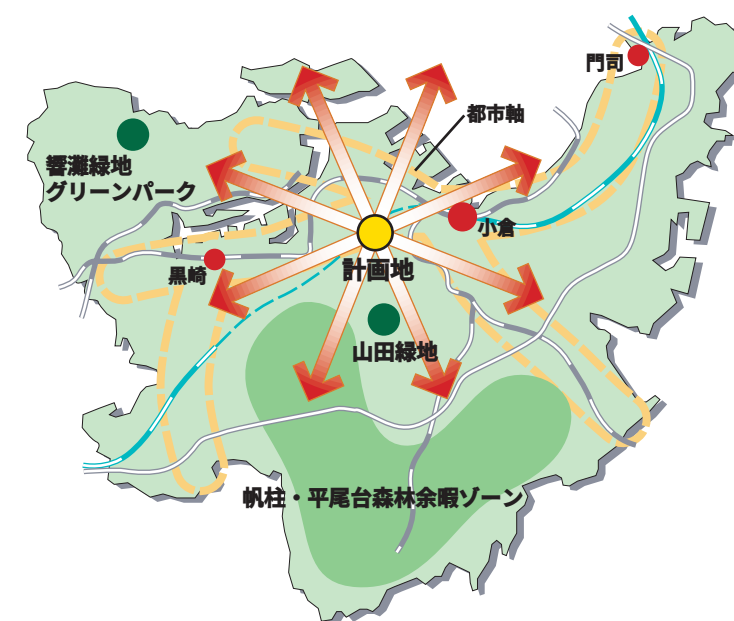
- ・世界の興味深い野生の世界を覗き見る「窓口」
- ・地球環境の多様性や動物の生態に気づき、知るための「窓口」

北九州の身近な自然への窓口

- ・郷土の自然への感心を深める「窓口」
- ・市内の自然環境（森、川、海、干潟など）へと市民をいざなう「窓口」
- ・市内の関連施設（響灘、山田緑地、自然史博物館など）へと市民をいざなう「窓口」

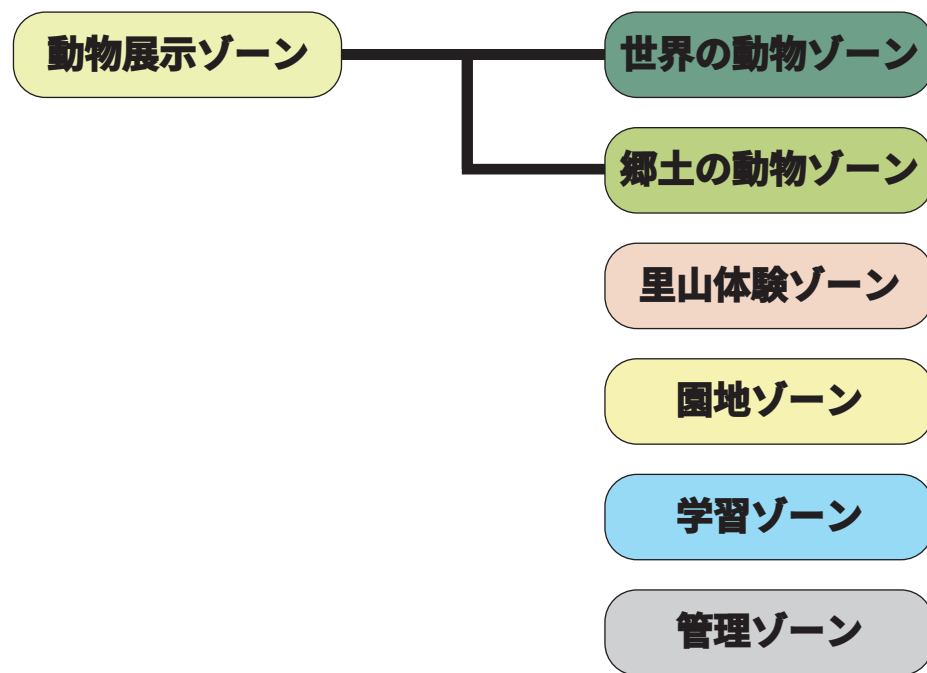


中央公園の自然を積極的に活用し、身近な自然を体感するための「窓口」となる



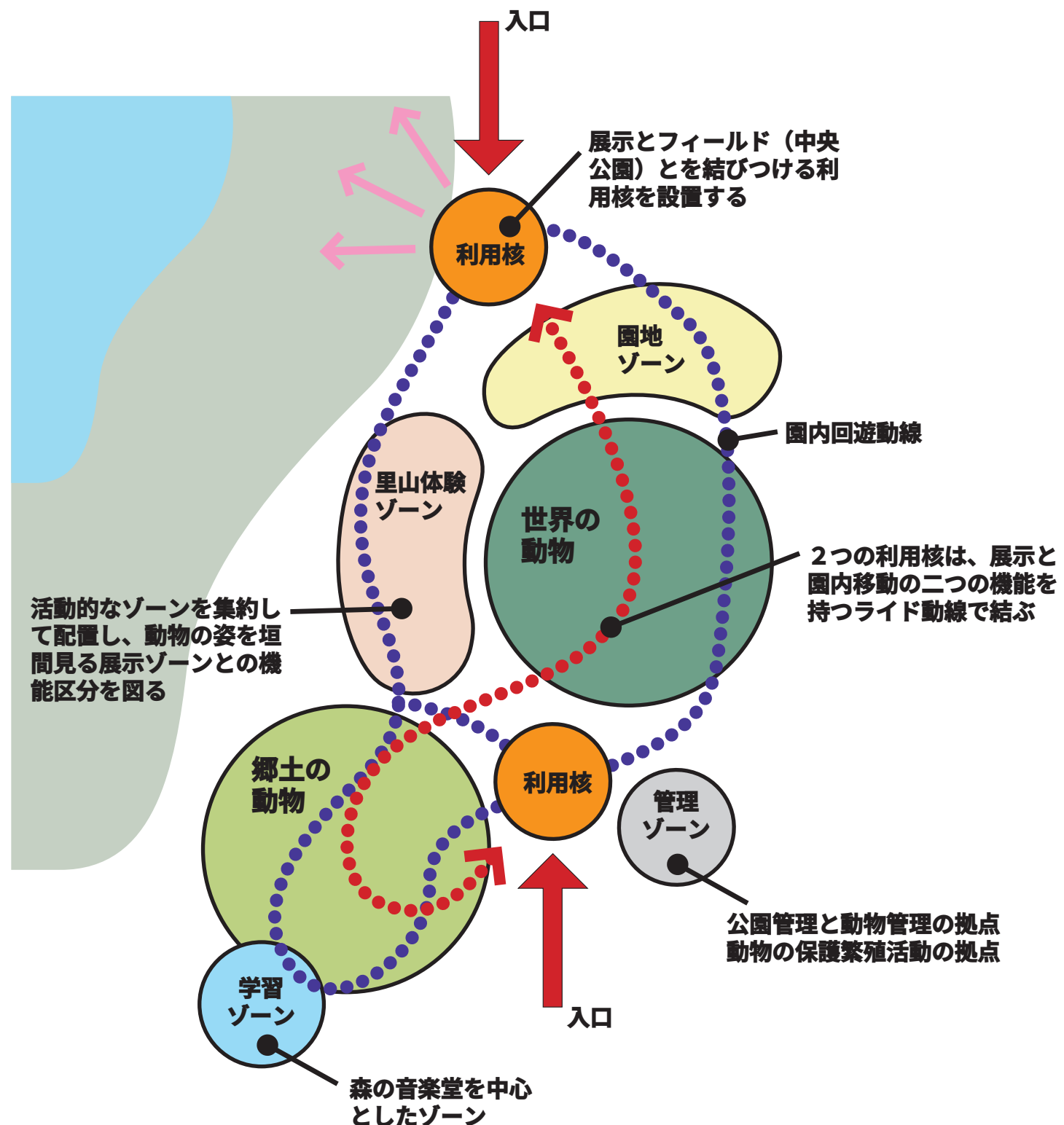
市域の様々な自然環境や関連施設へと市民をいざなう「窓口」となる

導入機能の構成



空間配置・動線の考え方

- 基本テーマである2つの展示ゾーン（郷土の動物、世界の動物）を骨格に機能配置を行う。
- 中央公園との関連や二つの展示ゾーンを結びつける拠点として「利用核」を各入口付近に設置し、この利用核を中心に園内回遊動線を設置する。また、この「利用核」は、情報発信の拠点としても位置づける。
- 各利用核を結ぶ動線にライドを用いることにより、新しい展示体験を生み出すとともに、移動の利便性を向上させる。
- 現況の森の音楽堂や児童センター周辺を学習ゾーンとして位置づける。
- 活動的な体験やアトラクションが伴う里山体験ゾーンや園地ゾーンを、動物展示ゾーンから明確に区分することにより、動物展示ゾーンでの“自然環境の体感”を損なわないように配慮するとともに、展示動物への影響を防ぐ。





現到津遊園区域

中央公園区域

水辺体験フィールド
(中央公園の利用)

- ・水鳥のバードウォッチング
- ・水生昆虫、魚類などの観察
- ・水辺散策

森林体験フィールド
(中央公園の利用)

- ・森林鳥類のバードウォッチングの場
- ・昆虫観察の場
- ・森の中の冒険遊び
- ・オリエンテーリング
- ・山の草花の観賞
- ・森林浴

里山体験ゾーン

昔の里山での生活を体験し、自然との関わりを知り、楽しむ場

動物展示ゾーン
(郷土の動物)

到津の森を背景に、郷土の森や水辺に生息する動物を展示

園地ゾーン

芝生広場や花畑などによる、来園者の憩いと安らぎの空間

動物展示ゾーン
(世界の動物)

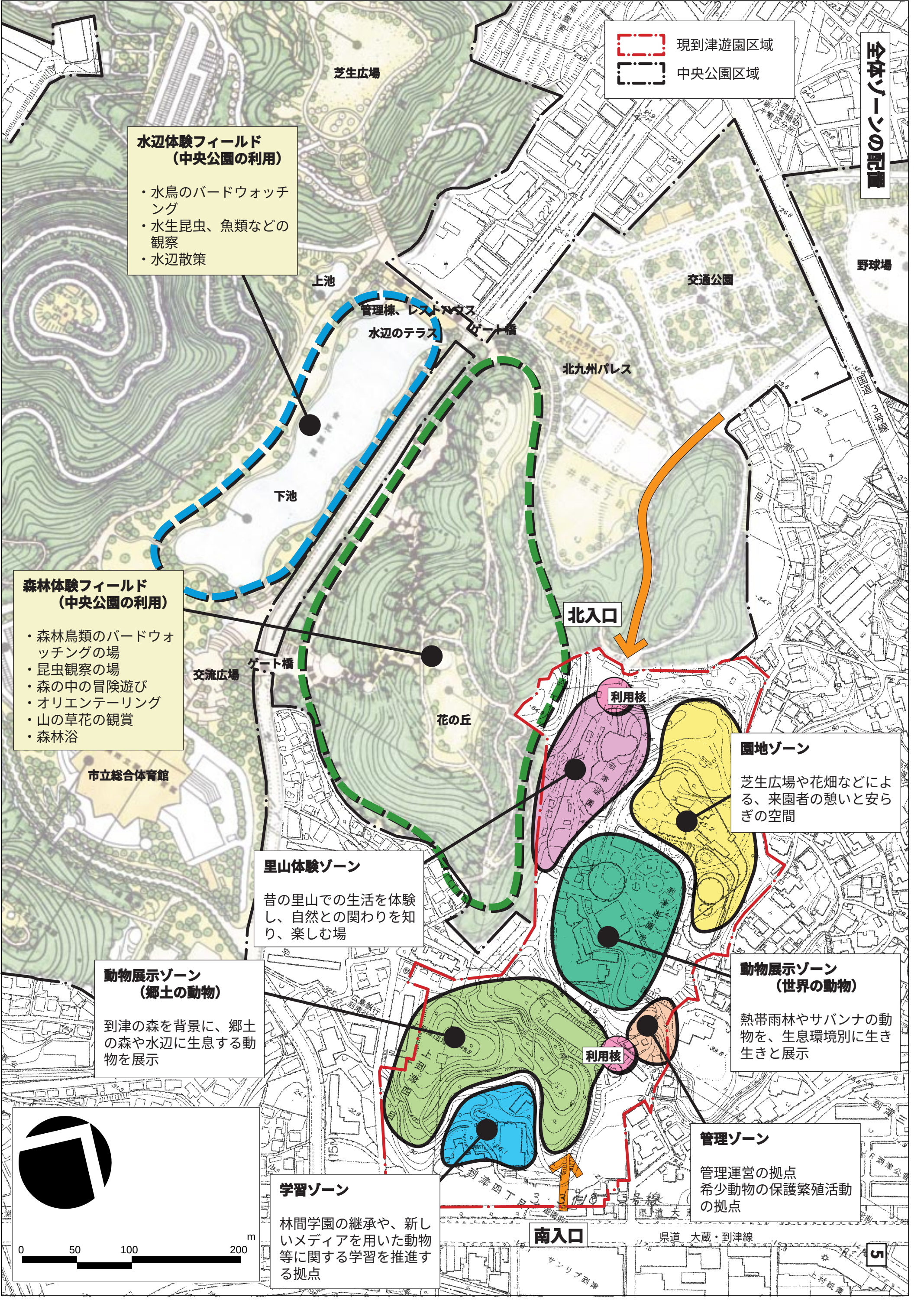
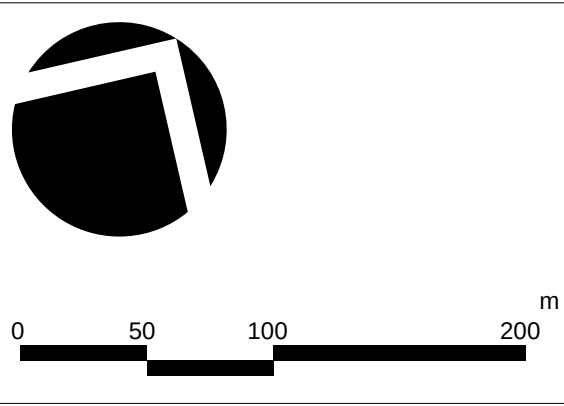
熱帯雨林やサバンナの動物を、生息環境別に生き生きと展示

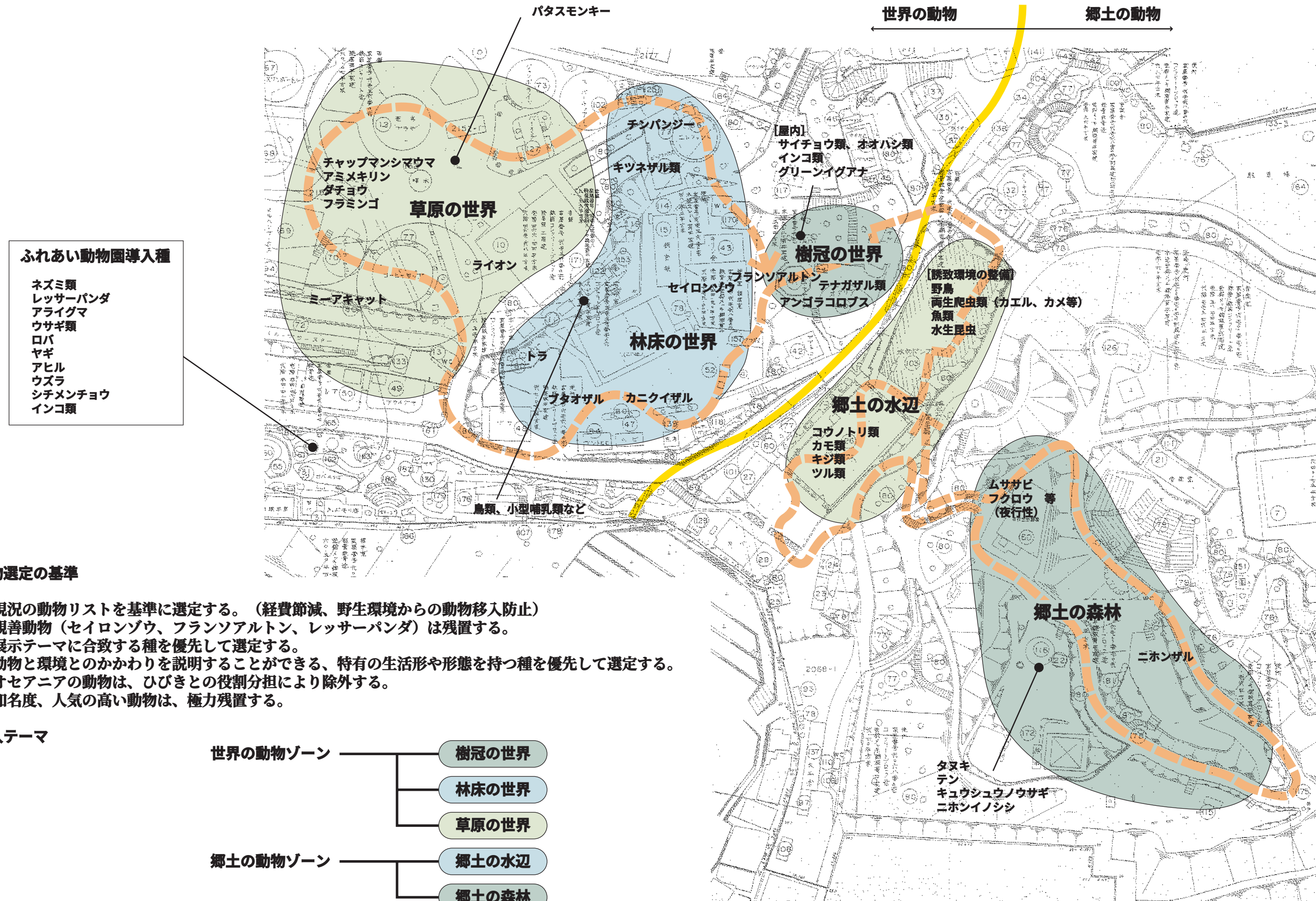
管理ゾーン

管理運営の拠点
希少動物の保護繁殖活動の拠点

学習ゾーン

林間学園の継承や、新しいメディアを用いた動物等に関する学習を推進する拠点



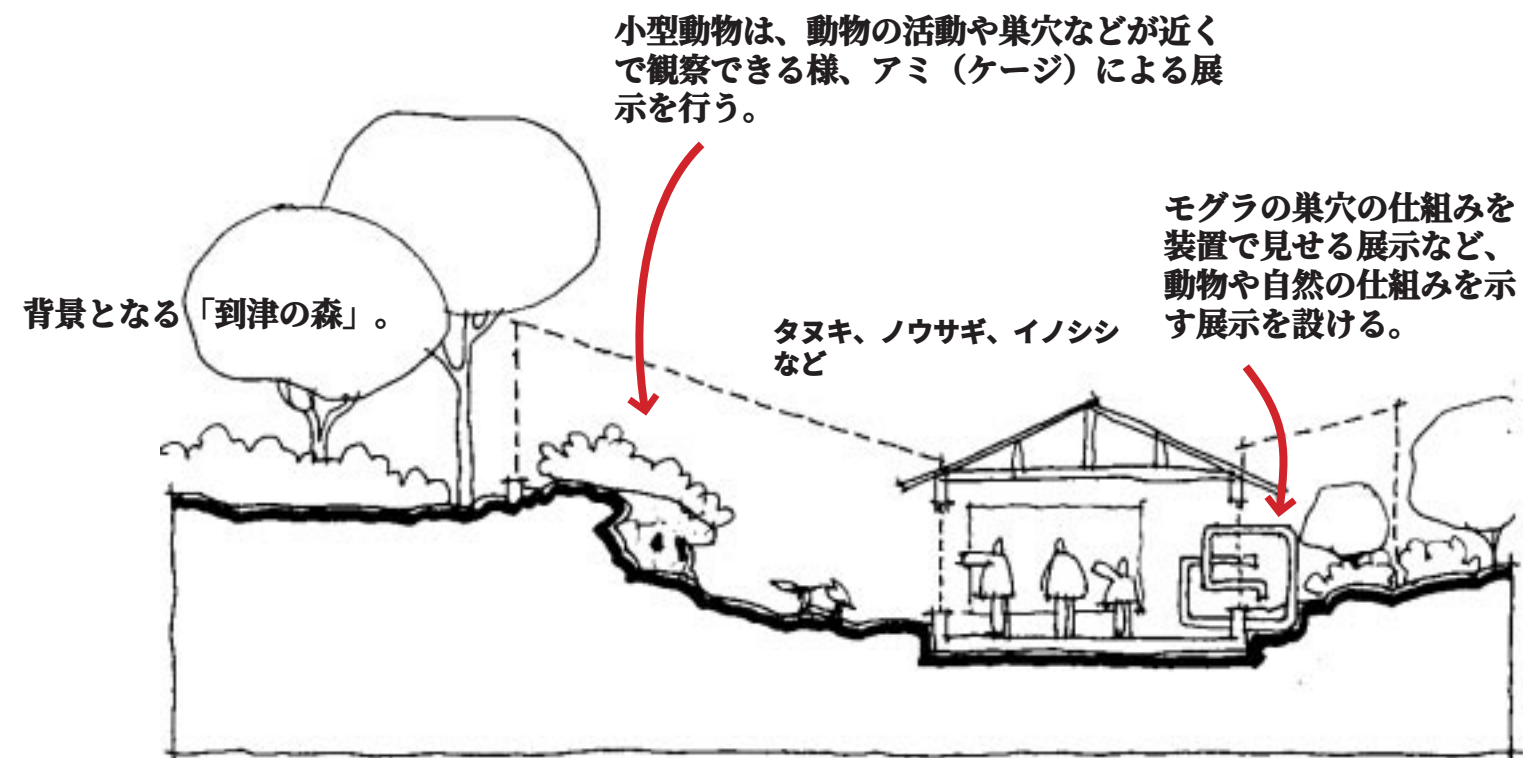
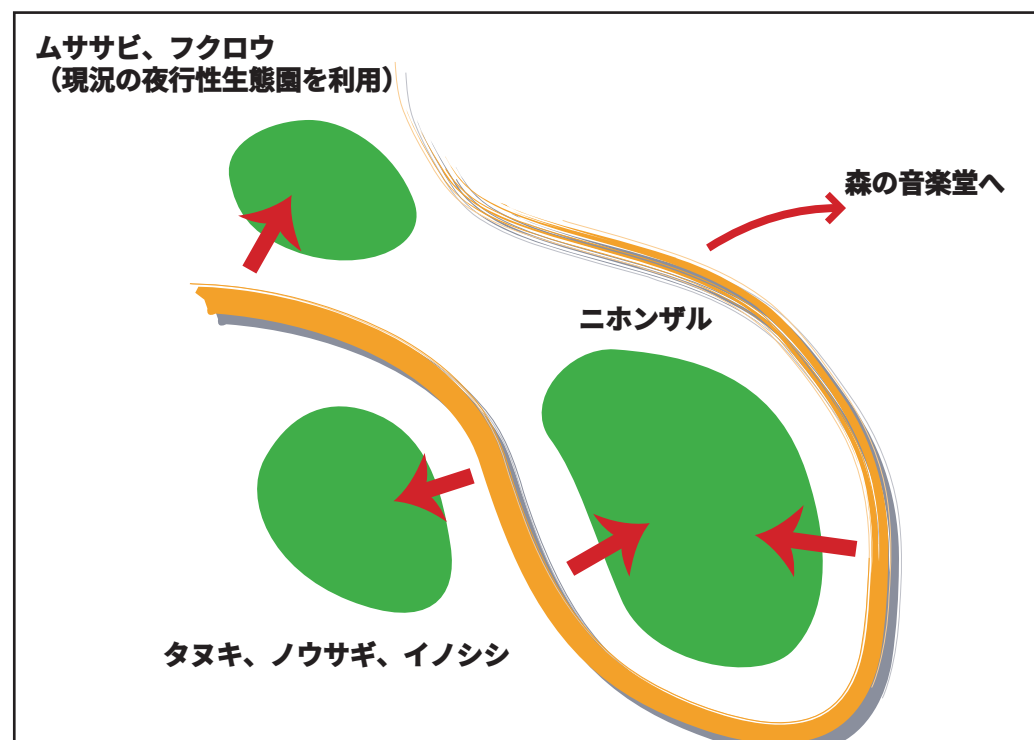


動物選定の基準

- ・ 現況の動物リストを基準に選定する。（経費節減、野生環境からの動物移入防止）
- ・ 親善動物（セロンゾウ、フランソアルトン、レッサーパンダ）は残置する。
- ・ 展示テーマに合致する種を優先して選定する。
- ・ 動物と環境とのかかわりを説明することができる、特有の生活形や形態を持つ種を優先して選定する。
- ・ オセアニアの動物は、ひびきとの役割分担により除外する。
- ・ 知名度、人気の高い動物は、極力残置する。

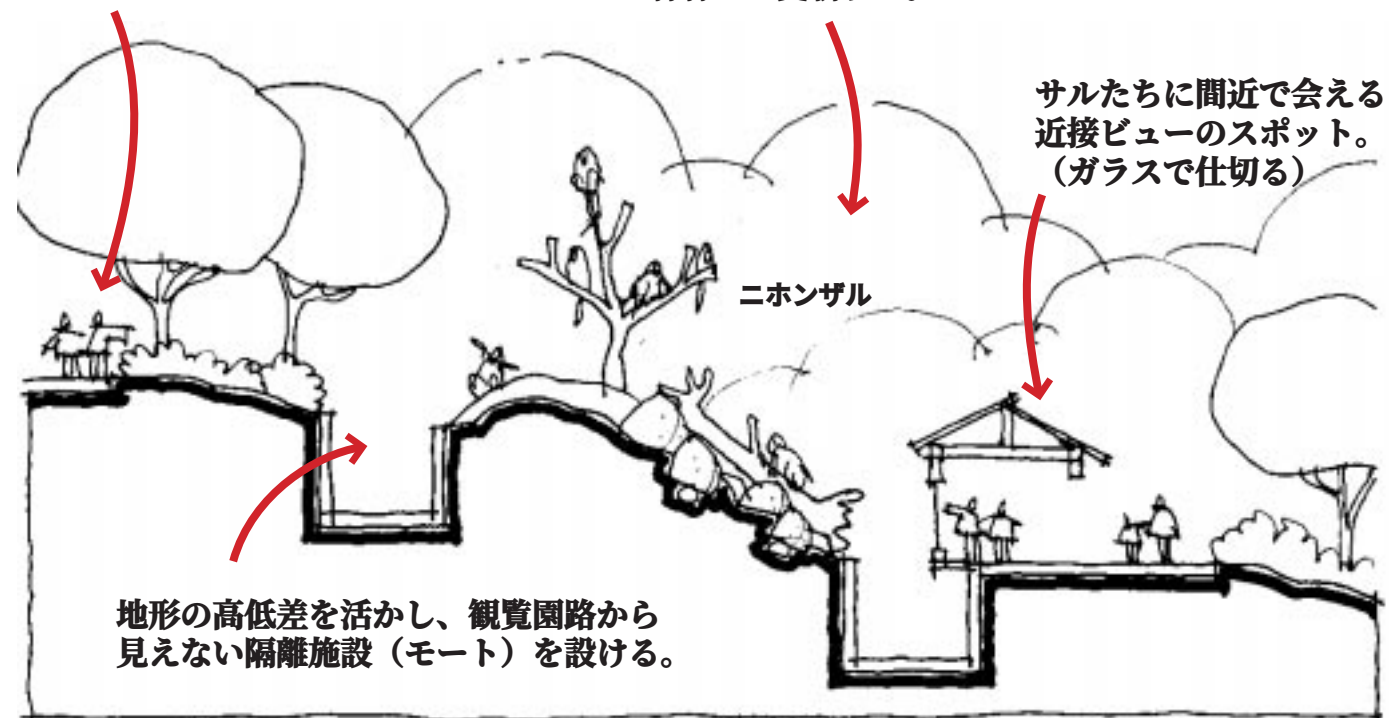
導入テーマ

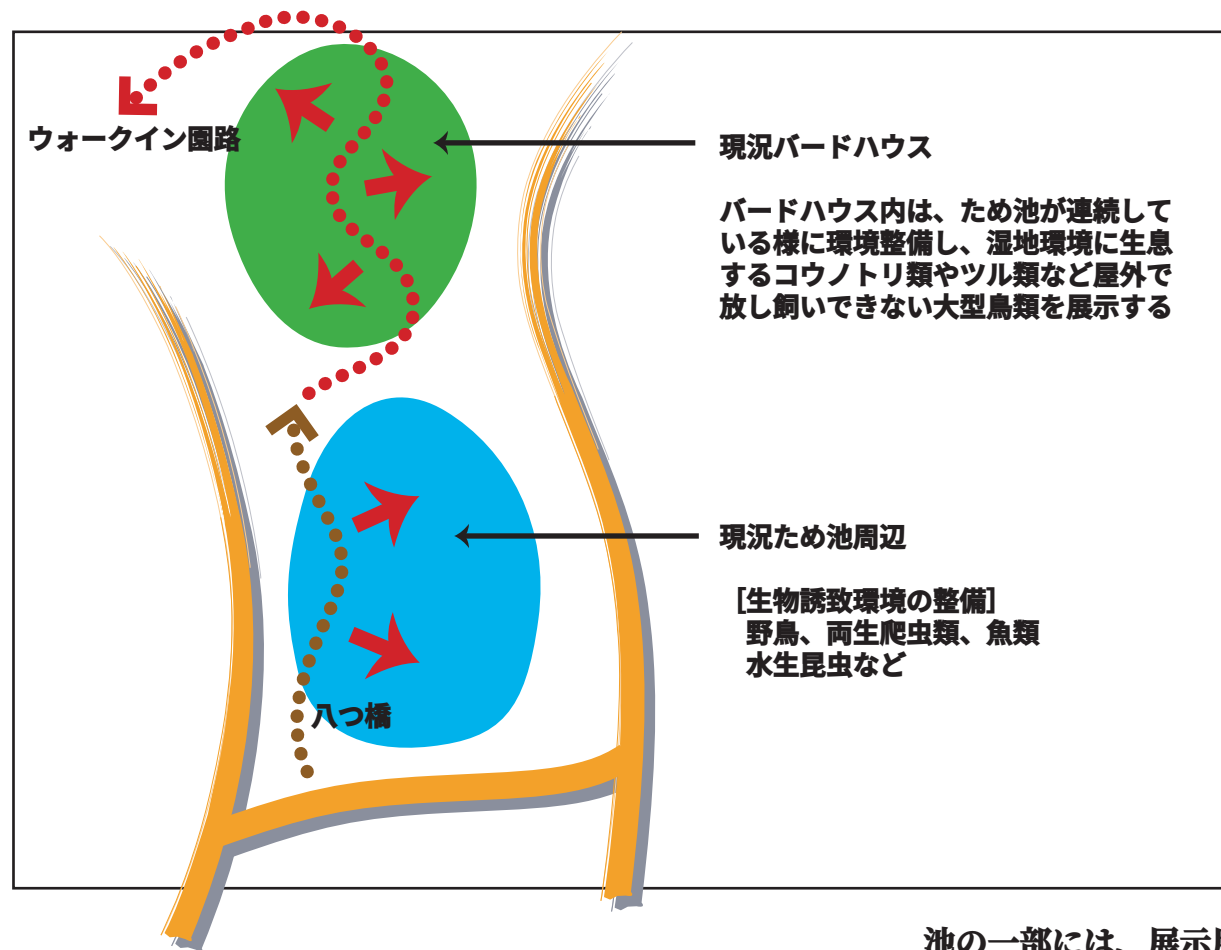
ゾーン	郷土の動物ゾーン		世界の動物ゾーン		
展示テーマ	郷土の森林	郷土の水辺	樹冠の世界	林床の世界	草原の世界
展示内容	現況の壮麗な照葉樹林を生かし、昔から人間の生活と密接に関わってきた森の動物とその生活を展示する。	現況のため池周辺を自然的環境へと復元することにより、生態的に多様で、なおかつ景観的にも魅力的な水辺の自然を展示する。	地球上で最も多様だといわれている熱帯雨林を中心に、普段意識することの少ない森林の樹冠の環境を展示する。	「樹冠の世界」と密接な関係にありながら、全く異なる生態をもつ林床や水辺の環境を展示する。	熱帯雨林との対比が顕著に表れ、かつ市民が親しみを覚えやすい大型草食獣を取り込むことができる、草原の環境を展示する。
設定環境	現況の樹林を生かした照葉樹林環境を設定する。一部、樹林が損なわれている部分などには、落葉樹林や草地などの環境を再現し、環境の多様性を図る。	現在のため池を中心に、水辺林や抽水植物群落等を造成し、一つのまとまった水辺環境を再現する。	現在わずかに残る斜面林と新たに常緑樹を植栽することにより、鬱蒼としたジャングルを再現する。	熱帯雨林の生態的関連性を明確に体感できるように、「樹冠の世界」の近辺に配置する。	イネ科低茎草地や有棘植物の疎林など、サバンナに見られる様々な環境を再現する。
展示方法	観覧者自身が歩き観察することにより、展示動物を見つけだすような擬似的な自然観察体験ができる展示とする。	原則的に「郷土の森林」と同じであるが、水中環境を見ることができる展示や、展示動物に十分近づくことができる八つ橋等を設ける。	観覧者自身が観察ブリッジに登り、熱帯雨林で行われている生態調査を疑似体験する展示を行う。	薄暗いジャングルの中を進む小道や奇妙な形をした熱帯植物に囲まれた広場、湿地や水辺などを配しジャングルウォークを体感できる展示を行う。	草原の中をさまよう園路を用意することにより、サファリ探検を疑似体験できるような展示を行う。
動物種	ニホンザル、タヌキ、ノウサギ、イノシシ 森林性鳥類、昆虫類（誘致）	コウノトリ、サギ類、カモ類、ツル類 水辺水中の鳥類、両生爬虫類、魚類、水生昆虫（誘致）	現在の展示種から、樹冠生活に適応した動物を中心に選定 テナガザル類、フランソアルトン、アンゴラコロブス サイチョウ類、オオハシ類、インコ類、グリーンイグアナ	樹冠生活者とは、生活や体の機能が明確に異なり、比較が容易な動物を中心に選定 トラ、ゾウ、カニクイザル、ブタオザル チンパンジー、キツネザル類	人気の高い大型草食獣と、草原特有の生活形を有する動物を中心に選定 パタスモンキー、ライオン、ミーアキャット、シマウマ、キリン ダチョウ、フラミンゴ



森を散歩していたら、ふとニホンザルを見つけた様な雰囲気を感じられる、樹林に囲まれた観覧園路。

「到津の森」の樹木を最大限に生かしつつ、植物の補植などにより多様で自然性の豊かな森林へと更新する。

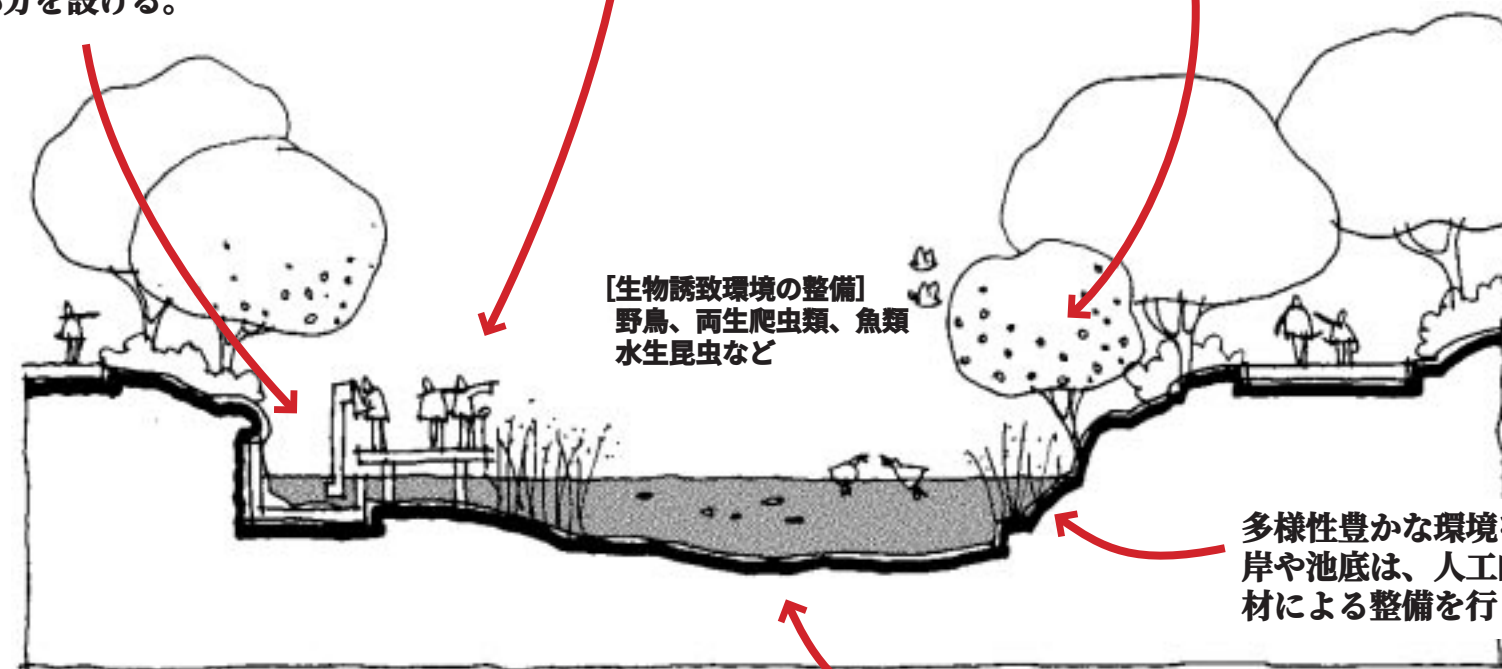




池により近づいて観察ができる
八つ橋を設ける。

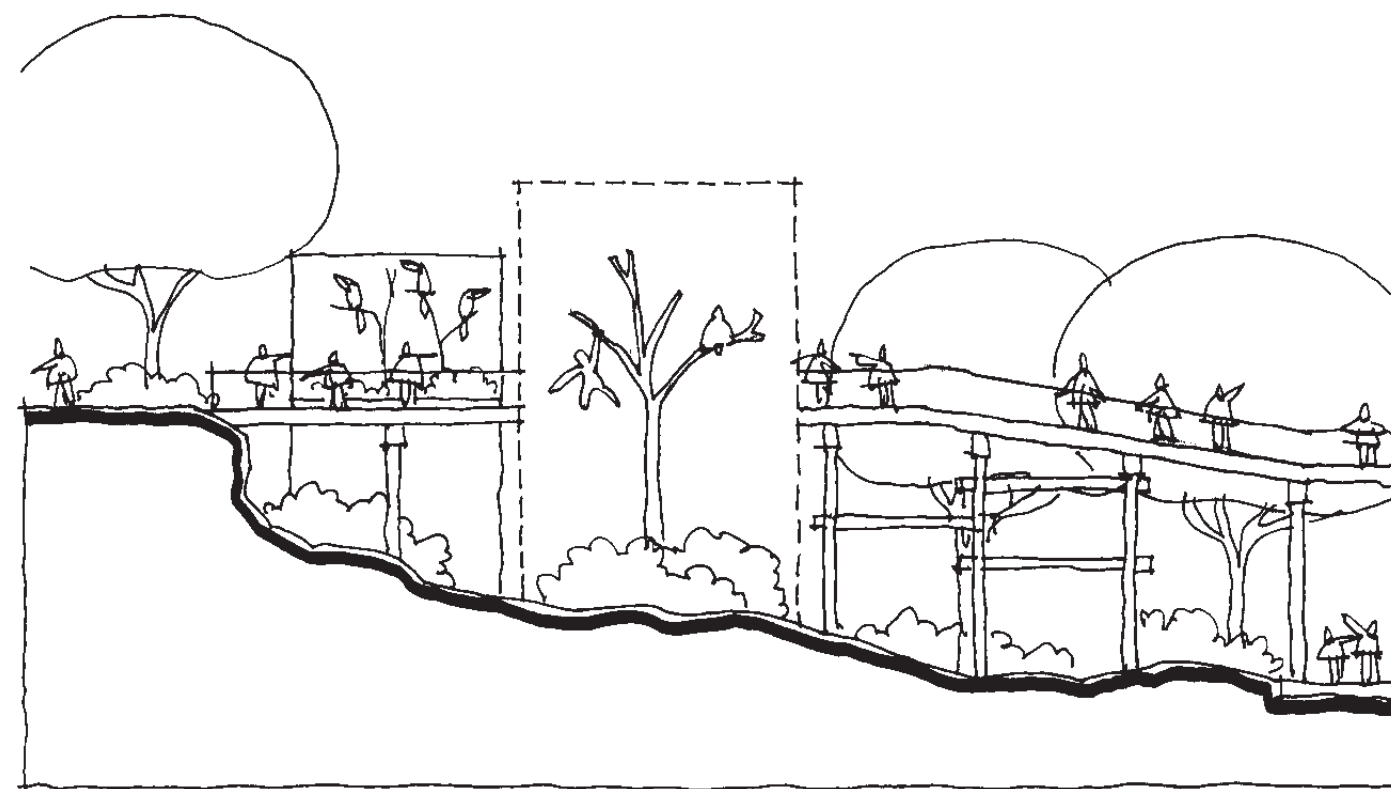
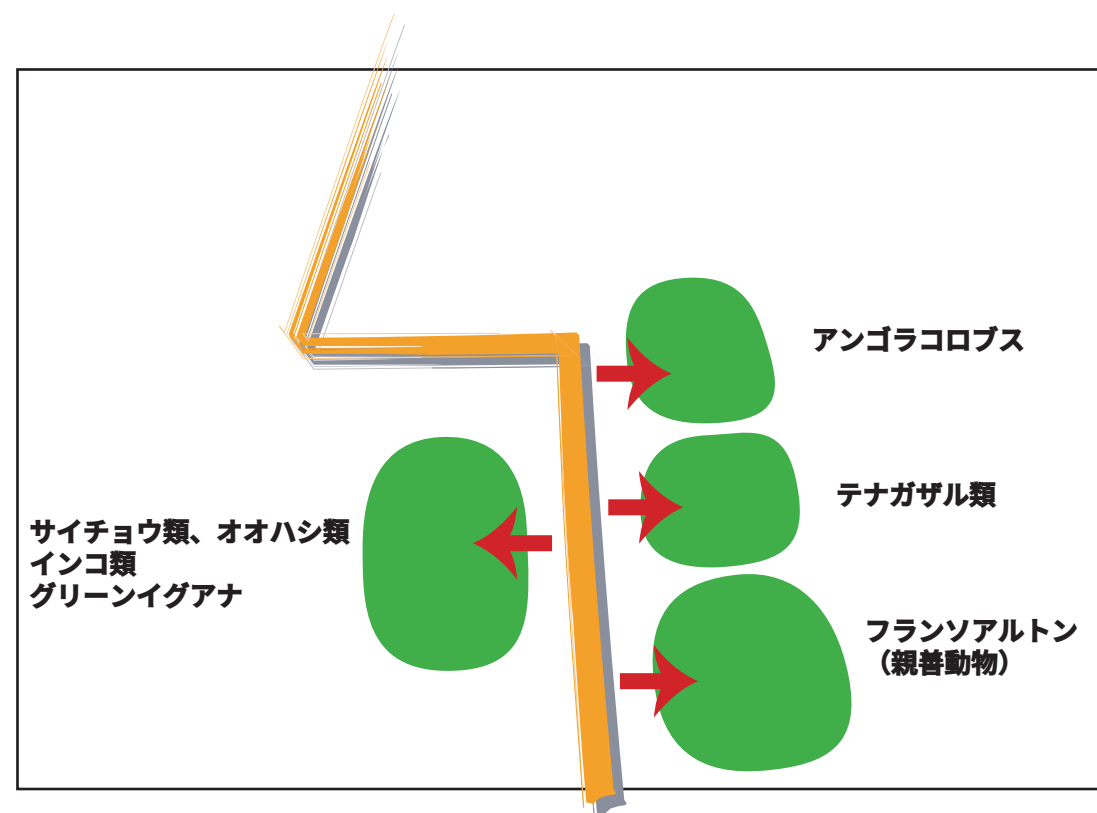
池の一部には、展示用のプールを設け
水生昆虫や魚類の観察がいつでも行える
部分を設ける。

鳥の好む実のなる木や隠れ場所となる
草などを植栽し、野鳥の誘致を図る



多様性豊かな環境を創出するため、池の護
岸や池底は、人工的な材料を用いず自然素
材による整備を行う。

池底をさらい、水湿生植物を植栽する
ことにより、水質の浄化を図る。



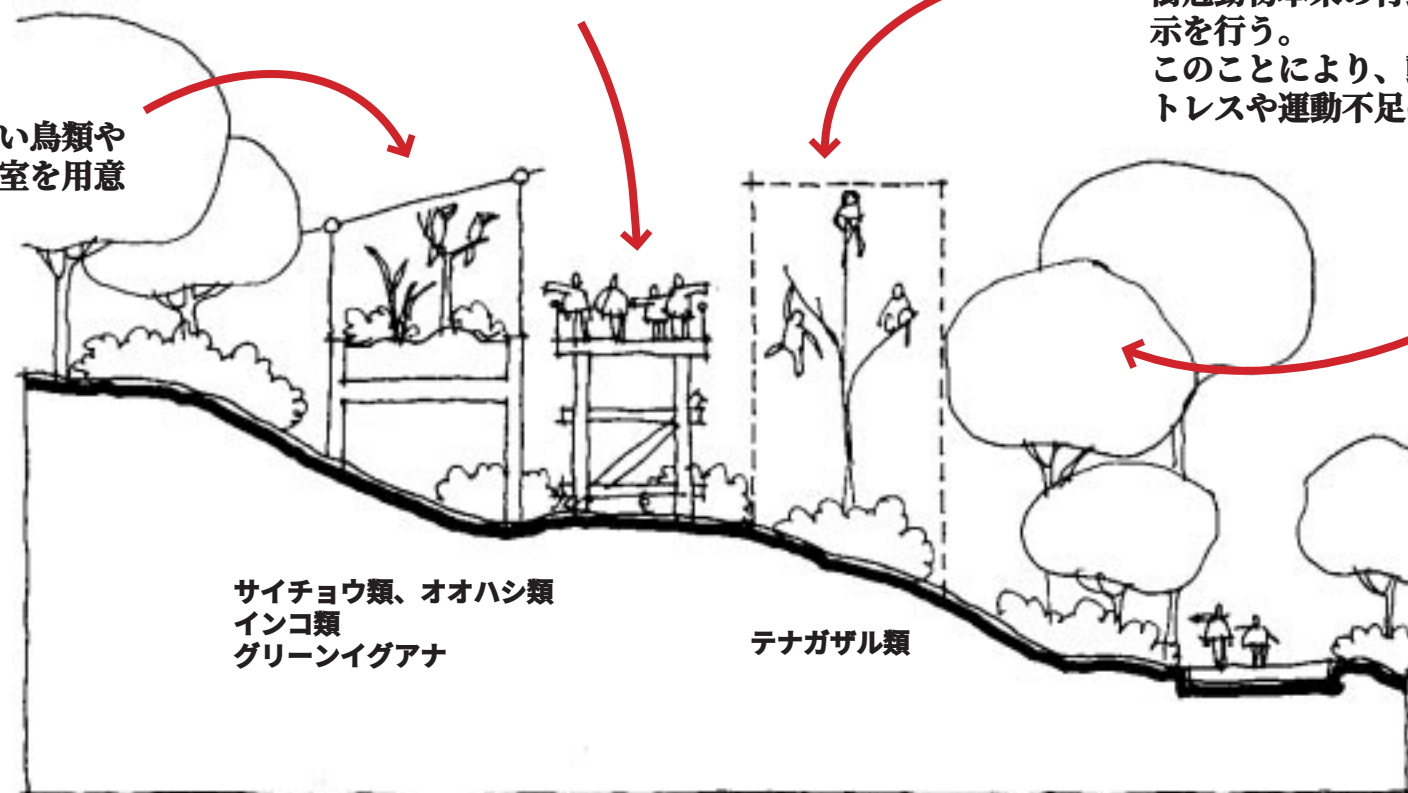
側面のイメージ

木々の間を抜けるように進む木橋。
(森の中の空中散歩を演出)

止まり木や本当の木を展示の中に取り入れ、木々の間を行き来する樹冠動物本来の行動をうながす展示を行う。
このことにより、動物の精神的ストレスや運動不足の解消を図る。

展示の背景には、樹林（現況木）を配し、樹冠動物の生息環境を再現する。

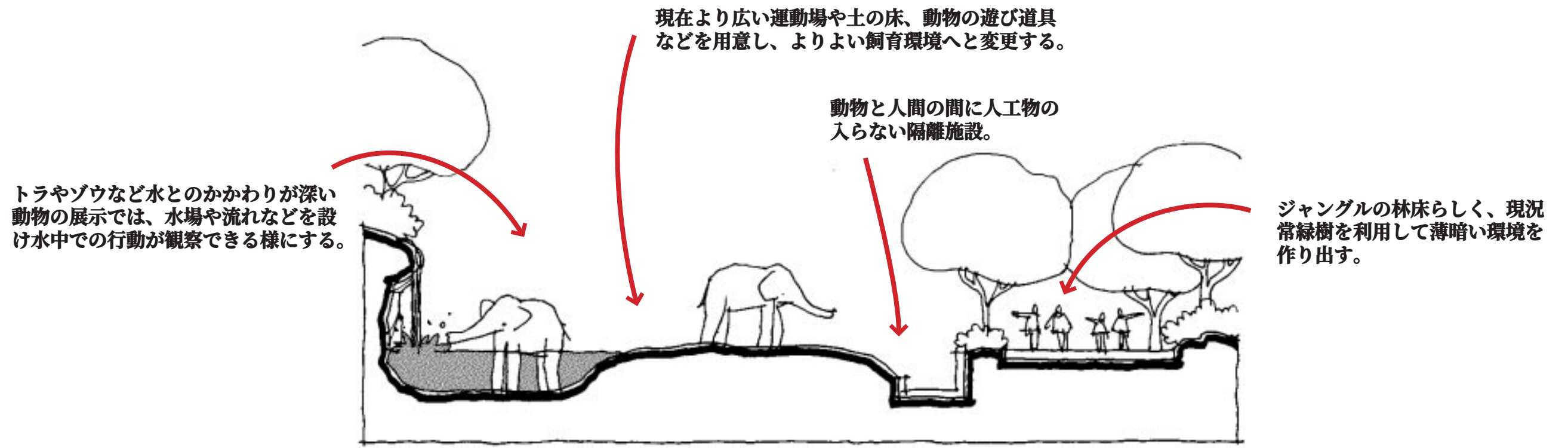
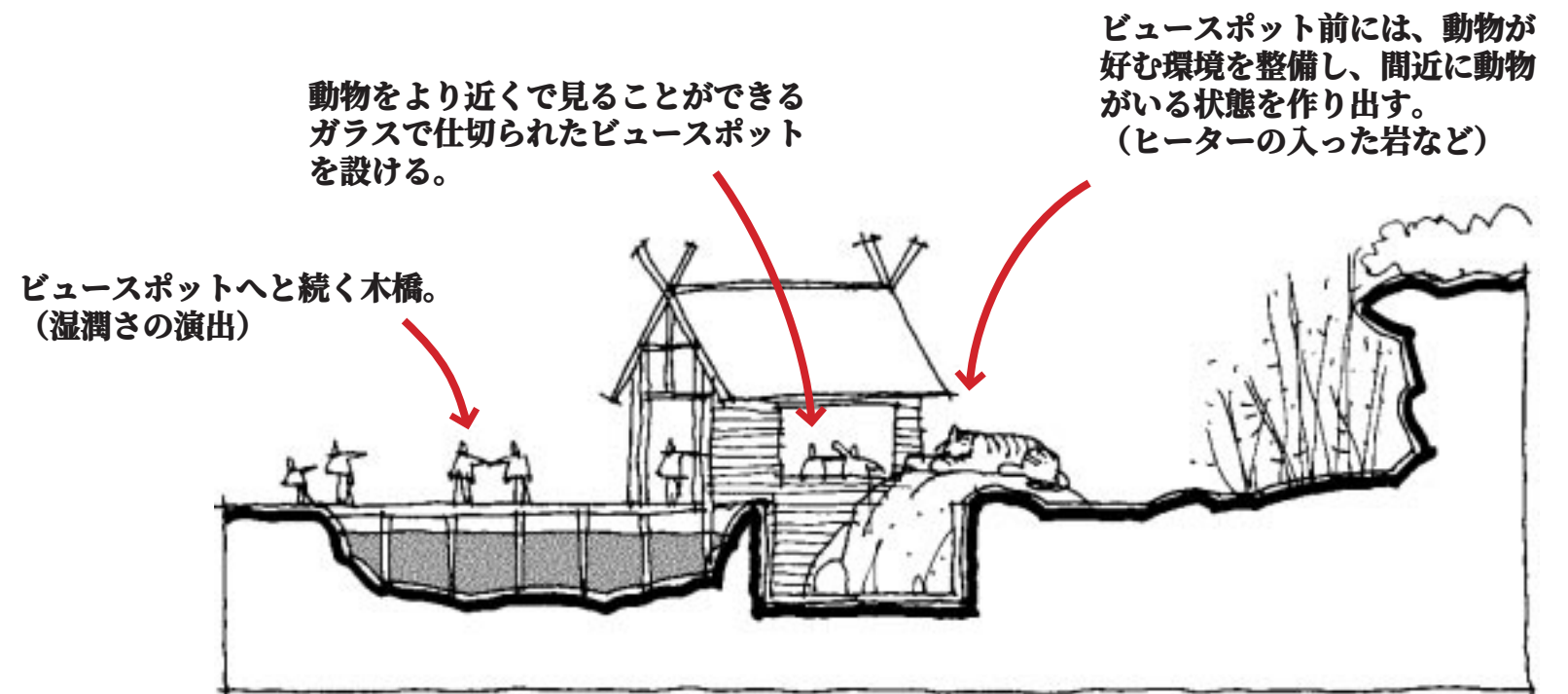
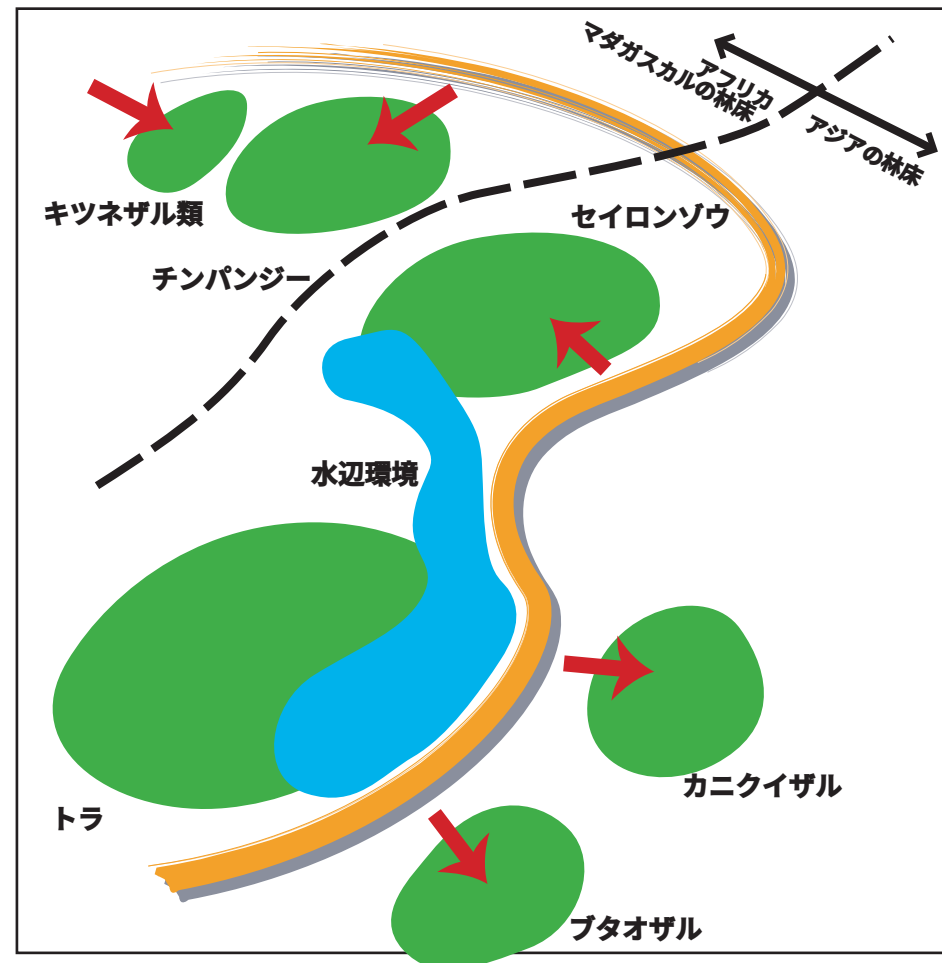
冬季の気候に対応できない鳥類や爬虫類は、温室状の展示室を用意する。

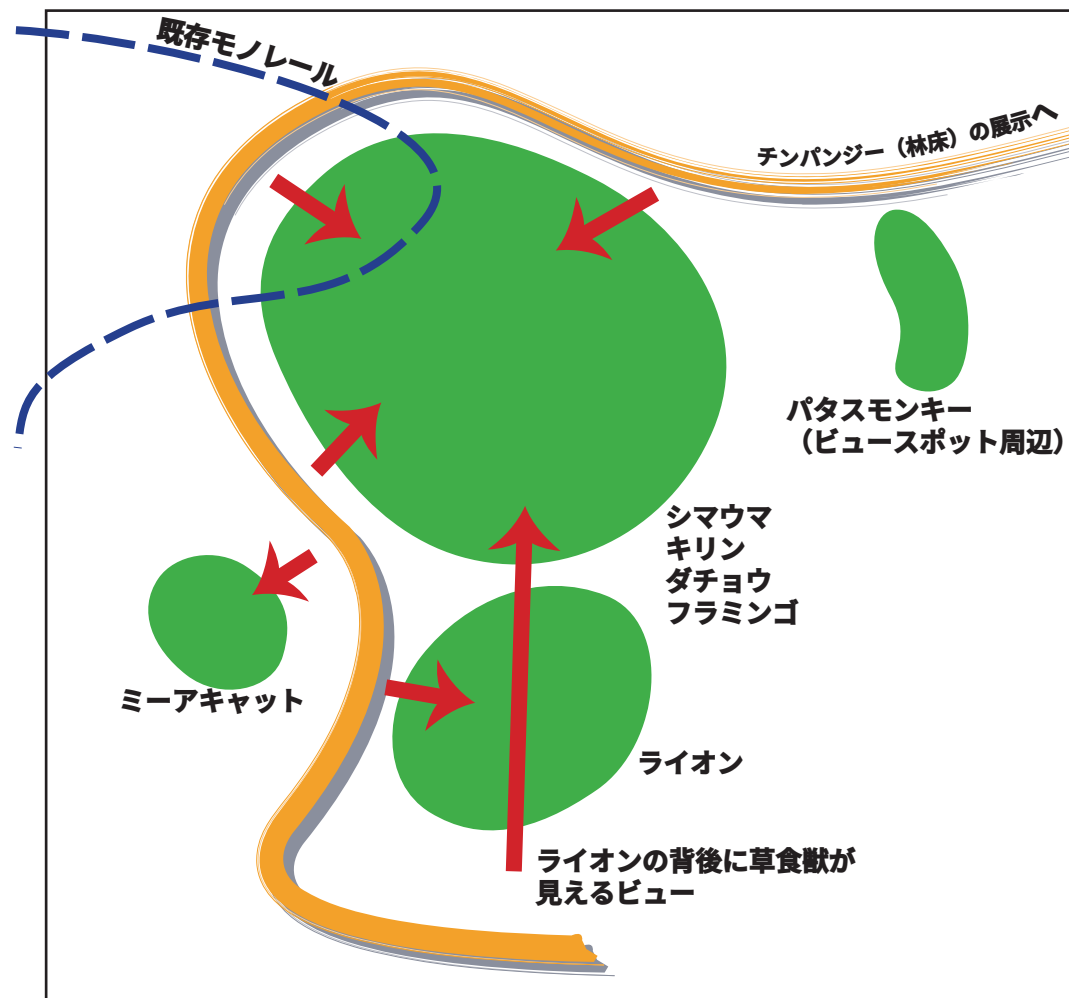


サイチョウ類、オオハシ類
インコ類
グリーンイグアナ

テナガザル類

断面のイメージ

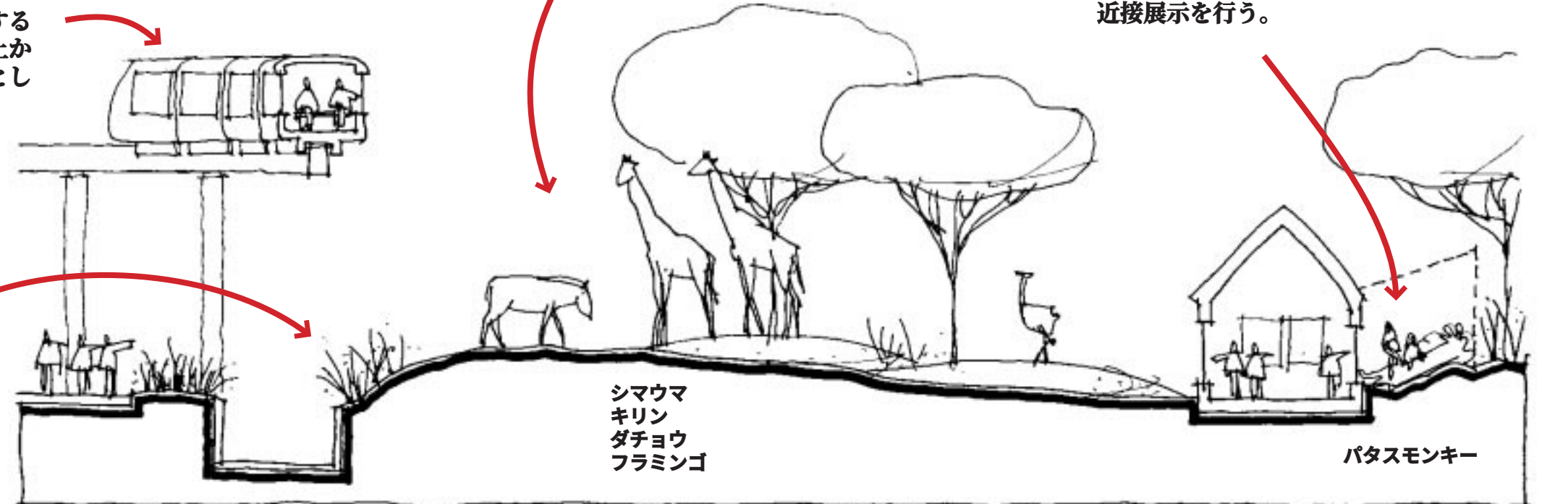




広大なサバンナの景観を作り出すため、
地形による視線制御などを行う。
(対面の人工物が見えないようにする)

現況の遊具を最大限利用する
ため、大型草食獣の群を上か
ら観察できるモノレールとし
て活用する。

隔離施設の前後には、植栽による連
続感を作り展示(動物の運動場)観
覧空間との一体感を演出する。



一部の小型動物は、ビュースポットに集約し
近接展示を行う。

里山の生活体験

里山の自然や農村環境を再現した「里山体験施設」で、人間と動物がうまく共存していたかつての生活を遊びながら体験することにより、自然とのかかわり方を学ぶ。

【知り、感じること】

- ・動物相、生態系が上手に循環していること
- ・四季を通じた農作物の生長過程や、人間に恵みをもたらす実りの姿
- ・人間の生活の営みに関わった動物とのふれあい
- ・自然とうまくつきあうための、里山生活の知恵や工夫

【主な活動メニュー】

- ・生活の関わりの深い家畜（牛やチャボ）の飼育
- ・農機具の展示
- ・高齢者の体験談を聞く

自然観察のガイダンス（フィールドへのいざない）

到津遊園の現況樹林や中央公園の森林・水辺をフィールドとした、さまざまな動物や植物の観察を、支援し普及していくためのガイダンスを行う。

【知り、感じること】

- ・自然の不思議や美しさ、生存競争の厳しさ
- ・自分が住んでいる世界（都会）となにが異なるのか
- ・自然の営みや四季の変化

【主な活動メニュー】

- ・バードウォッチング（動物観察）
- ・昆虫さがし（動物観察）
- ・山菜、野草さがし（植物観察）
- ・ネイチャーゲーム
- ・トンボ、カエル池づくり
- ・たい肥づくり
- ・鳴き声あて等のゲーム
- ・ミニハイキング、オリエンテーリング

どうぶつとのふれあい

人間とともに生活してきた身近な動物（家畜動物、ペット）とのふれあいを通じて、都市生活では得難い生きた動物とのコミュニケーションを体験する。

【知り、感じること】

- ・人間以外の動物と一対一で対峙することにより、生命へのいとおしさを育む
- ・生物の暖かさや、かわいらしさを直に感じる
- ・動物への思いやりを含め、ペットとの付き合い方を知り学ぶ

【主な活動メニュー】

- ・牛の乳搾り
- ・羊の毛刈り
- ・タッチングズー（小動物とのふれあい）
- ・犬の散歩体験
- ・ポニーや馬の乗馬
- ・動物のショー（鷹狩など動物の能力を知るもの）

遊具選定の基準

- ・新しい施設や周辺との連携が図れる遊具。

森を眺望できる遊具
動物展示を上から見ることができる遊具
(モノレールなど)

- ・ニーズが高い、乳幼児向きの遊具

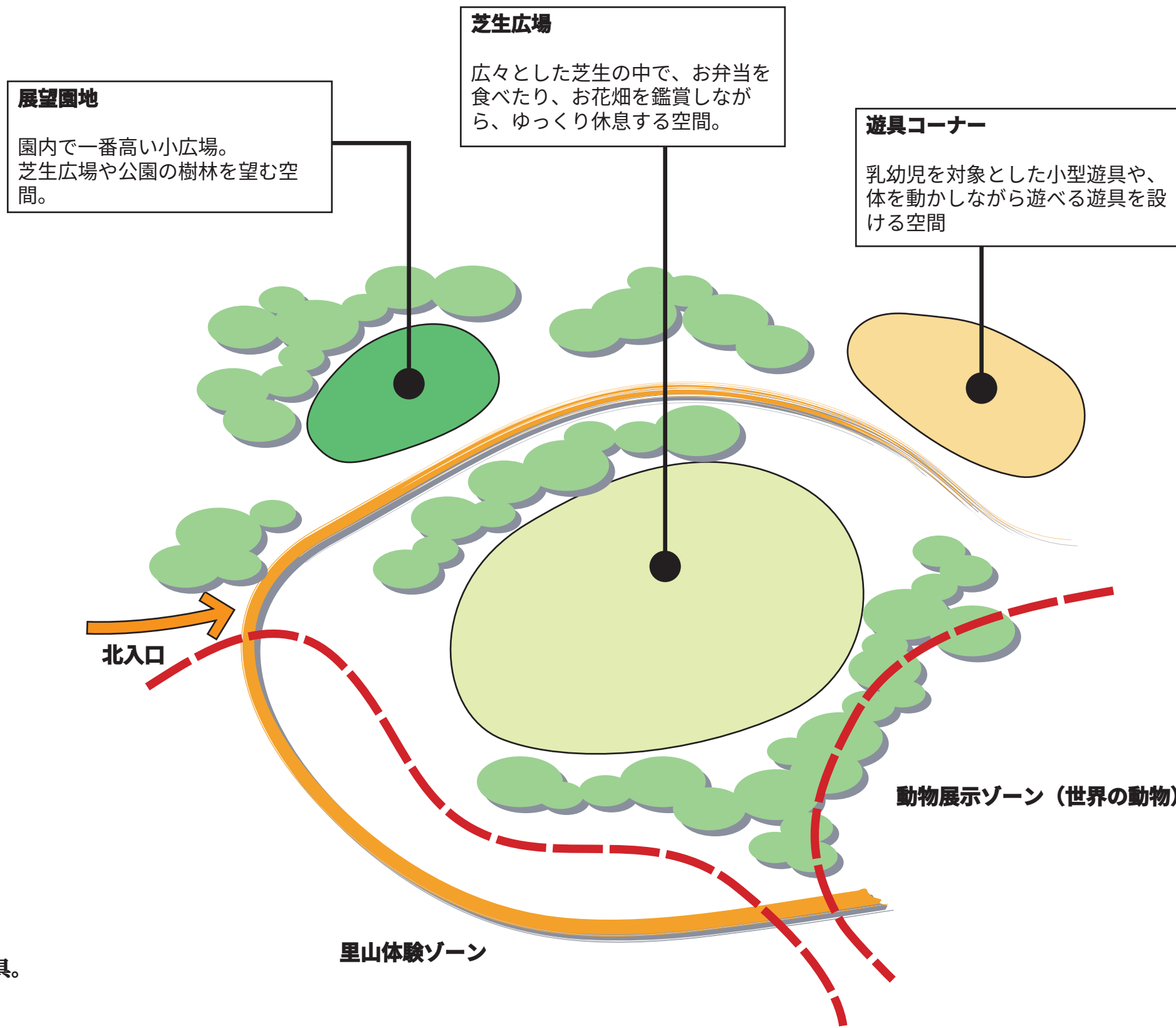
子供汽車、メリーゴーランド系のもの

- ・体を動かして遊べる遊具

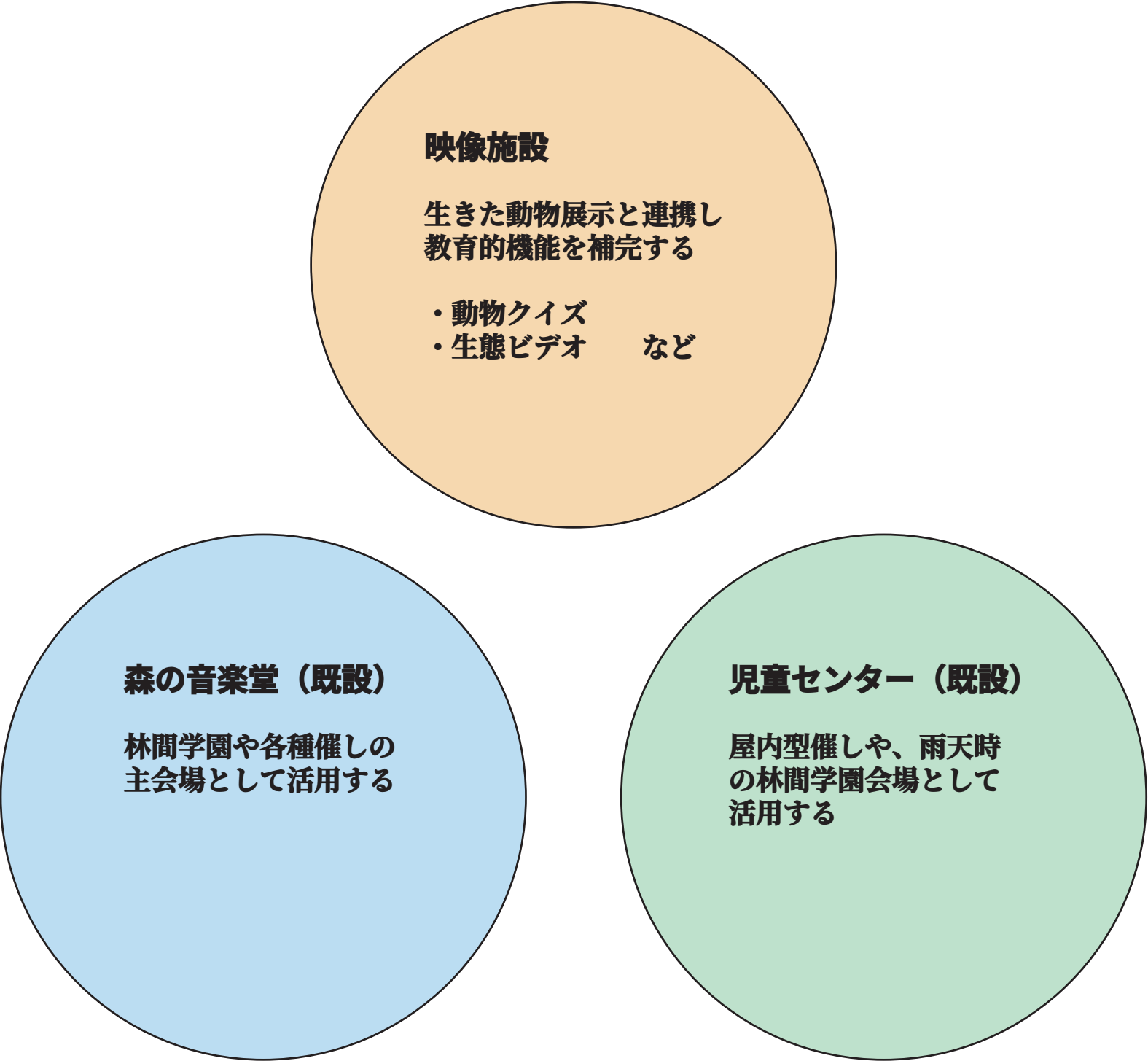
サイクルモノレールなど

[以下の遊具は、撤去を前提とする]

- ・基本理念や全体イメージから極端に離れた遊具。
(ジェットコースターなどスリルを味わう遊具など)
- ・移設や補修が困難な遊具。
(お化け屋敷など屋内施設、長大な軌道を持つもの)
- ・設置年度が古く、維持管理上の問題が生じる恐れのある遊具。



導入機能の構成



導入機能の構成

